

北部病院だより 第116号(2018.2)

Showa University Northern Yokohama Hospital

- 【巻頭言】 心で聴く
- 【お知らせ】 洗足学園音楽大学ロビーコンサート
- 【TOPICS】 スキルアップセミナー
- 【お知らせ】 がん患者サロン「きぼう」
- 【TOPICS】 前立腺癌
- 【患者さんからのご意見・ご要望】
- 【診療統計】
- 【医師の配属・異動・退職】
- 【編集後記】



昭和大学
横浜市北部病院

90th
SHOWA University
至誠一貫 Since 1928

巻頭言 ～心で聴く～



普段めったに見ないテレビの歌謡番組ですが、大晦日の夜だけは別です。もちろん「NHK 紅白歌合戦」です。いつもノッテ歌い踊っている歌手たちが真面目に一生懸命歌うのです。こちらも多少畏まってテレビの前で拝聴します。多くの歌手はその年にヒットした曲を得意気に歌います。そのうちの何割（半分以上とも？）は録音した音に合わせて口パクで踊っているだけです。あれだけ派手に踊りながら良い声で上手に歌えるはずがないですね。最近これといってヒット曲がなかった実力派の歌手は自分の昔のヒット曲を歌うか、カバー曲を歌うことが多いようです。カバー曲というのは大ヒットした曲を後に別の歌手が歌うことを言います。美空ひばりや中島みゆきの歌を別の歌手が歌ったりしていますね。今回は演歌歌手の福田こうへいが村田英雄の「王将」を歌いました。ふーけーば飛ぶような、です。私が幼稚園児だった頃に大ヒットしていました。福田こうへいさんは実力派の演歌歌手で、真面目な演歌歌手であるとテレビで見た瞬間から疑わない佇まいの方です。晩年の村田英雄さんは声も震えて、音程もうわずって往年の堂々とした歌いっぷりとは遠くかけ離れていましたから、福田こうへいさんが張りのある声で一生懸命歌う様子は文句もある訳がありません。しかし、聴きながら「でもなんだか違うなあ…」と感じてしまいました。村田英雄さんのいい加減な音程で歌う「王将」の方がいいなあ…と。なぜでしょう？



〈消化器センター〉
石田 文生 教授

もともと「王将」の主人公である棋士 坂田三吉は貧しい環境で育ち、通天閣を見上げて歯を食いしばって不世出の棋士になった人です。その人生を歌うには村田英雄さんの「目分量で歌う」感じがぴったりで、福田こうへいさんの歌は健康的過ぎるのかも知れません。そう振り返ってみると「歌を聴く」ときに単に美しい声、正確な演奏を聴くことだけでは満足できないようです。

ちょっと話の角度を変えてみます。人間の耳、専門的には聴覚といいますが、周波数 20 ヘルツから 20,000 ヘルツくらいの音が聞こえるのだそうです。周波数が高い方が高く聞こえます。個人差、年齢的な劣化などで高音は 15,000 ヘルツくらいまでしか聞こえないこともあります。ふつうどんな高さで歌っているかという、200 ヘルツから 1,000 ヘルツくらいでしょうか。オーケストラが演奏前に A（アーと呼びます。ラの音）の高さで楽器の音程を揃えますが、それが 440 ヘルツです。人間の声や楽器には「音程」と呼ばれる高さがありますが、実はいろいろな形の波形の集合みたいなもので、言い換えるといろいろな高さのすごい種類の音が合わさって何となく聞こえているのです。詳しく言えば、低音から高音までのたくさんの音が同時に鳴って、ある音程で聞こえているのです。私たちがよく聴く音源の CD は鳴っている全部の音を録音しているのではなくて、人間の耳で聞こえる音程のやや外側までカバーして 20 ヘルツから 22,000 ヘルツの音域が録音されています。つまり録音の信号量を節約しているのです。ですから私たちの耳では生の音と CD に録音された音の違いを区別できないはずですが、でもそうではないと思います。生で聴いて感動した曲を CD で聴いたら同じに響かない、心に届かないということがありますよね。生の音と、CD で聴く音で反応する脳波を比較すると波の形が違うそうです。

理屈で説明することはできませんが、音楽は鳴っている音だけではないナニかを聴いているのではないのでしょうか。決して気分だけではないナニかを。



お知らせ ㊦ 洗足学園音楽大学ロビーコンサート ㊦

【ロビーコンサート】

日時：平成 30 年 2 月 20 日（火）19：00～

場所：当院中央棟 1 階初診受付前

出演：洗足学園音楽大学 秦ゼミメンバー

曲目：1. フルート 2 台とピアノによる日本の四季メドレー

2. バイオリン、チェロ、ピアノによる

「君の瞳に恋している」

「Over The Rainbow」

3. トランペットとピアノによるジャズ

「A 列車で行こう」

「One day in December」

4. ボーカルとピアノによるジャズセッション

「ジャズスタンダードセミナー」



TOPICS ～スキルアップセミナー～



平成 30 年 1 月 20 日（土）に当院に所属する研修医を対象として、昭和大学横浜市北部病院スキルアップセミナーが開催されました。

このセミナーは日ごろ研鑽を積んでいる研修医に更なる手技の向上を目的に開催されるもので、本年度で 7 年目を迎えます。当院を代表する消化器センターや循環器センター、呼吸器センター、救急センターを始め、外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、脳神経外科、泌尿器科などの各外科系診療科より、優れた講師陣を迎えての実施となりました。

今回のセミナーを通して、「さらに研鑽に励みたい」「今回得た経験を基に今まで以上に日々の研修に取り組み、一人前の医師になりたい」等の感想をいただきました。

当院の未来を支えていく研修医たちが今よりも頼もしい医師に成長することを願っております。

〈管理課〉



お知らせ ～がん患者サロン「きぼう」～



【がん患者サロン「きぼう」】

日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木）14：00～14：45

場 所：当院中央棟 9 階大会議室

講演者：緩和ケアチーム薬剤師 徳永 愛美

緩和ケア認定看護師 杉阪 利枝

テーマ：がんの痛み止めについて

～緩和ケア、緩和ケア病棟って何？～



〈がんサロンの様子〉

TOPICS ～前立腺癌～



唐突ですが、男性で一番多い癌は何だと思いませんか？

実は前立腺癌です。2016年の部位別罹患数予測では日本の男性に一番多い癌は前立腺癌でした。意外に思う方も多いと思いますが、高齢男性ではやっぱりと思う方も少なくないと思います。前立腺癌は高齢男性の癌だからです。特に70歳以上の男性にとっては周囲に前立腺癌の患者さんがいる方も多いと思います。

前立腺癌の増加には3つの理由があります。社会全体の高齢化（高齢男性の増加）、食生活の欧米化とPSAスクリーニングの普及です。PSAは前立腺に特異的な酵素で、前立腺の疾患で血中濃度が上昇します。4-10ng/mlでは前立腺癌が存在する確率は30%、10-20 ng/mlでは50%、20 ng/ml以上ではほぼ100%が前立腺癌です。PSAを健康診断等の血液検査で行うことにより、早期に発見される前立腺癌が増えています。前立腺癌は進行しないから治療しなくてもよいという意見があります。進行が遅い癌であることが多いですが、全例が遅いわけではありません。前立腺癌は男性の癌死でも6番目に多い癌です。癌の病理学的悪性度を表わすグリソンスコアが6点の癌は比較的穏やかな癌ですが、8点以上の癌は積極的な治療が必要です。適切に対応すれば比較的怖くない癌ということではできると思います。

よくある質問に前立腺癌が見つかったら手術すべきでしょうかというものがあります。前立腺癌の治療法はバラエティーに富んでいます。手術だけでも通常の前立腺全摘除術、内視鏡手術、ロボット支援内視鏡手術があります。放射線療法も原体照射、粒子線療法、小線源療法、IMRTなど多岐にわたります。その他にも抗男性ホルモン療法、抗癌剤治療などがあります。治療の優劣は一口には言えないので、年齢や病状（ステージ、悪性度）、合併症、治療にかかる費用や日数などの個別の条件に合わせて治療を選ぶことができます。ひとつの施設ですべての治療をできるわけではなく、多くの病院では分業して行っています。当院では現在は前立腺全摘除術とIMRTによる放射線療法を中心に治療を行っていき、ロボット支援手術は昭和大学病院、小線源療法は昭和大学江東豊洲病院と提携して行っていますので、ほぼすべての治療をカバーしています。

最近増えてきているのがPSA監視療法です。早期に見つかった前立腺癌の中でも悪性度が低く、小さい癌では治療を行わないことがあります。なぜなら、早期に見つかった前立腺癌の中には生命予後に影響を与えない癌も含まれている可能性があるからです。PSAは早期発見には有用ですが生命予後に影響のない潜在癌も見つかることが問題です。潜在癌の過剰診断に対する解がPSA監視療法です。PSAのもう一つの特徴である経過観察に対する有用性を生かし、PSAを定期的に検査することで手術や放射線療法などの治療をせず、血液検査のみで経過を見ていきます。魅力的な治療法ですが、すべての患者さんに適応があるわけではないことをご注意ください。もちろんPSAが上昇してくる場合は積極的な治療を考慮することになります。

このように前立腺癌の治療は一律ではありません。中高年男性はまずはPSA検査を受けてみてください。運悪く前立腺癌ができてしまったときには、病状（癌の悪性度、ステージ）、年齢、合併症等を勘案して治療を考えましょう。まずはかかりつけの医師にPSA検査の相談をしてみてください。



〈泌尿器科〉
井上 克己 教授



患者さんからのご意見・ご要望



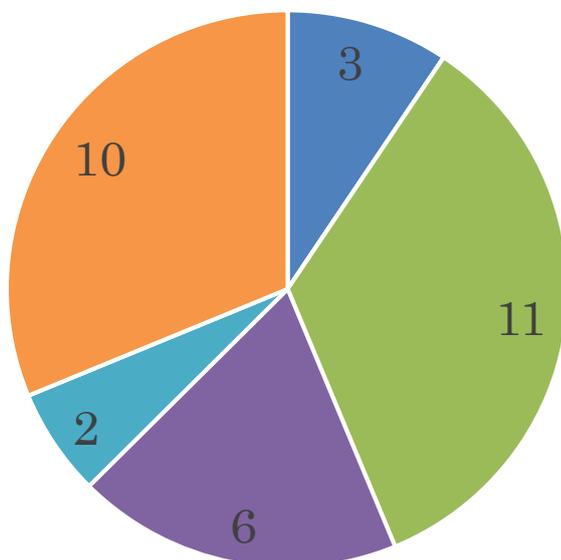
日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p><運用・サービスについて> 文書窓口の待ち時間が長い。 1時間以上待ちました。もっと人を増やしてください。</p> <p style="text-align: right;">他 10 件</p>	<p>この度は大変ご迷惑をおかけし誠に申し訳ございませんでした。 午前中は退院時に診断書類の申込みをされる方と、入院手続きの時間帯が重なり、待ち時間が生じる場合がございます。 待ち時間の目安のご案内や席を外していただくことも対応いたしますので、ご遠慮なく受付窓口にお声がけください。また、朝 8 時 30 分～10 時ごろまでと夕方、土曜の午後の時間帯は比較的窓口が空いておりますので、ご利用いただければ幸いです。 この度は貴重なご意見をお寄せ下さりありがとうございます。</p>
<p><環境について> 子どもの受診で来ました。 授乳室が 1 ヶ所しかないのもう少し増やしてほしいです。2 階にもあると便利だと思います。</p> <p style="text-align: right;">他 5 件</p>	<p>貴重なご意見をいただきありがとうございます。 現在、授乳室として利用可能な場所は、1 階の小児科外来の中の授乳室となります。現段階では設備の構造上、増設することは難しいのが現状です。 今後、院内設備の用途変更等で授乳室確保が可能となった場合には、前向きに検討させていただきたいと思っております。 ご理解とご協力をお願いいたします。</p>

平成29年12月 ご意見・ご要望の総計 32件



- 接遇・マナー
- 診療内容
- 運用・サービス
- 環境
- 感謝
- その他

診療統計



前年同月比 ()内は1日平均

診療実日数 2016年12月(入院:31日・外来:23日)、2017年12月(入院:31日・外来:23日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2016年12月	18,203人(587.2人)	28,088人(1,221.2人)	531人(17.1人)	659件(34.7件)
2017年12月	19,167人(618.3人)	27,807人(1,209.0人)	559人(18.6人)	687件(34.4件)

医師の配属・異動・退職



新規配属医師

2018年2月1日付

【附属施設より】

- ・田内 麻衣子 (産婦人科) 大学病院 産婦人科より
- ・三輪 善之 (こどもセンター) 江東豊洲病院 こどもセンターより

★編集後記★

日本は季節に応じて沢山の行事やイベントがあります。店頭にもクリスマスツリーや鏡餅、お雛様など一緒に並べられ、今何月だっけ?とふと考えてしまうことが皆様にも心当たりがあると思います。

2月といえば節分。節分は季節の分かれ目を意味し、現在は立春の前日を意味するそうです。季節の変わり目は邪気が入りやすく、豆まきで無病息災を祈る(諸説あります)ということだそうです。2月はまだまだ厳しい寒さを迎え、インフルエンザが流行する季節でもあります。豆まきだけでは予防はできません。手洗いうがいをしっかりとって予防しましょう。

とはいえ「冬きたりなば春遠からじ」の言葉通り春はそこまで来ています。これから暖かくなっていく季節、花粉症に悩まされる方も多いと思います。早目の対策で春を迎えましょう。

〈臨床病理検査室 十良澤 智子〉



北部病院だより 第116号
 平成30年2月1日発行
 発行責任者 門倉 光隆(昭和大学横浜市北部病院長)
 編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)
 発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院
 〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
 電話 045-949-7000(代表)
 URL: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>
 北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』
 がご覧いただけます。